

【授業科目】産業看護活動論Ⅱ

Occupational Health Nursing Ⅱ

担 当 教 員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
後藤 由紀、大谷喜美江、 佐藤 優子		3 年次 後 期	選 択	2	3 0	講 義	あり	巻末 掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対するフィードバック 方法	授業概要/小規模事業場における産業保健サービス、女性労働者・高齢労働者への健康支援など近年の産業保健の課題、産業保健・産業看護の国際動向について解説し、質の向上を目指した産業保健師の役割について学習する。 作業環境管理の基本である作業環境測定および働く人々への具体的な支援について、講義とグループワーク形式で授業を展開する。 課題に対するフィードバック方法／提出された課題について、全体の総評コメントを公開する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。								
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護援助できる」の達成に寄与している。								
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	① 近年の産業保健の課題を学び、看護職の役割を考えることができる。 ② 作業環境測定の意義と方法を学び、実施することができる。 ③ 働く人への具体的な支援をおこなうことができる。 ④ 質の高い産業保健活動を行うための産業看護職の役割を考え、表現することができる。								
時間外学習 に必要な 内容・時間	第1～15 回事前学習：指定の教科書を事前に読んでまとめておく(各 30 分) 第3～6 回事前学習：事例を読み、情報を整理し、アセスメント方法、課題抽出の考え方を整理しておく(90 分) 第7～9 回事前学習：作業環境管理について教科書を事前に読んでおく。参考書等を利用し作業環境基準を調べておく(各 30 分) 第14～15 回事後学習：労働と健康の関連、働く人への看護についてこれまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめておく(60 分)								
	※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。								
授業計画	第1回	コースガイダンス／小規模事業場における看護活動						後藤	
	第2回	小規模事業場における産業保健活動の実際						後藤	
	第3回	個を対象としたアセスメントの実際(GW) -健康診断後の保健指導-オリエンとアセスメント						大谷・佐藤	
	第4回	個を対象としたアセスメントの実際(GW)-事例アセスメント						大谷・佐藤	
	第5回	個を対象としたアセスメントの実際(GW)-計画立案						大谷・佐藤	
	第6回	個を対象としたアセスメントの実際(GW)-発表						大谷・佐藤	
	第7回	作業環境測定の意義と方法／作業環境測定ガイダンス						後藤	
	第8回	受動喫煙対策						佐藤	
	第9回	作業環境測定の実際①(技術演習)						後藤・大谷・佐藤	
	第10回	作業環境測定の実際②(技術演習)						後藤・大谷・佐藤	
	第11回	配慮が必要な労働者への支援①(女性、高齢者)						大谷	
	第12回	配慮が必要な労働者への支援②(障がい者、治療中の労働者)						佐藤	
	第13回	産業保健の今とこれからの産業保健・産業看護						後藤	
	第14回	産業看護職に求められる能力						後藤	
	第15回	産業看護とは／まとめ						後藤	
評価方法 評価基準	試験(60%)、レポート(15%)、グループワーク(15%)、受講態度(10%)								
教科書	河野啓子著『産業看護学』第2版日本看護協会出版会、2022 (2年次前学期「産業看護学概論」で使用したもの) 森見爾他編『職場の健康がみえる』メディアメディア、2019(3年次前学期「産業看護活動論Ⅰ」で使用したもの) 中央労働災害防止協会編『労働衛生のしおり令和5年度』中央労働災害防止協会、2022				参考書等	産業保健マニュアル改訂7版(南山堂) 河野啓子編 産業看護アセスメントツール(法研) 他、講義の中で適時紹介する。			
学生への 助言等	図書館に上欄の参考書が揃っているので、学習の参考にしてください。 産業看護学概論や産業看護活動論Ⅰで学んだことを十分に活用し、主体的かつ積極的に学習してください。グループワークでは、チームの一員として協調性や調整力を発揮しグループで課題に取り組み、表現力やコミュニケーション能力を高める努力を期待しています。 授業中の飲食・教室の出入りおよび携帯電話の取りだしは禁止とします。								